

泌尿器科外来診療のご案内

毎週水曜日午後には泌尿器科診察を行っています。
頻尿、夜間尿、尿失禁などの排尿障害のほか、健診での尿潜血、男性更年期、勃起不全、尿管結石、膀胱炎など幅広く対応致します。また前立腺癌健診の精密検査に対しては、診察当日のMRI検査を行うなど迅速な対応を行います。当院では高性能80列CT、1.5テスラMRIにより、泌尿器科悪性疾患（膀胱癌、腎臓癌、前立腺癌、精巣癌など）の経過観察を綿密に行うことが可能です。



* 排尿障害の症状

- ・尿がでにくい → 前立腺肥大、神経因性膀胱など
- ・尿の回数が多い → 過活動膀胱など
- ・尿がもれる → 腹圧性尿失禁など
- ・尿ががまんできない → 過活動膀胱など



* 前立腺精密検査（外来診察当日施行）

- ①尿検査（尿沈渣）
- ②血液検査（free/total PSA 比）
- ③腹部超音波
- ④前立腺MRI



①尿沈渣

尿路感染症の有無を評価します。尿路感染症がある場合にはPSA値が高くなる場合がありますので、正しいPSA値評価のために尿路感染が無い事を確認する必要があります。

②free/total PSA比

PSAの構成成分のfreePSAを測定します。同じPSAの値でも前立腺癌がある場合にはfree/total比が低くなる傾向があります。例えばPSA 4~10でもfree/total比が0.20を下回る場合は前立腺癌リスクがより高くなります。

③腹部超音波

前立腺体積、膀胱内残尿量を評価します。同じPSA値でも、前立腺が小さい場合には前立腺癌の可能性が高くなります。逆に前立腺肥大症が発見され、治療を行う場合もあります。

④前立腺MRI

前立腺癌が存在するとT2強調画像で低信号、拡散協調画像(DWI)で高信号となる性質を利用します。MRI撮影後、放射線科専門医による画像診断を行い、PI-RADS評価（前立腺がんの有無をスコア化し、評価する方法）を行います。前立腺癌診断において最も重要であるMRI画像診断が高い精度で行えることは、当院での大きな特徴です。